

# IFRS 財団アジア・オセアニア オフィスからの報告

IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス  
ディレクター

たけむら みつひろ  
竹村 光広

## はじめに

2013年後半は海外からの来訪者が多い期間でした。国際会計基準審議会（IASB）から多くの理事やスタッフが来日し、アジア・オセアニアオフィスを拠点としたアウトリーチを実施しました。また、11月には、IFRS 財団評議員会議長の Michel Prada が来日し、日本の会計関係者、政府関係者、経済界などと意見交換しました。

国内では、財務省や日本 CFA 協会セミナー講師を務め、「なぜ IFRS が必要か」を説明させていただく機会を得ました。また、9月に IFRS 教育研修視察のため中国廈門を訪問し、その後11月にはアジア・オセアニア基準設定主体グループ（AOSSG）の年次総会出席のためスリランカのコロンボを訪れました。

本稿では、これらの活動のうち特に、8月と11月に日本で開催された、リース会計、保険会計、及び、概念フレームワークのアウトリーチについて、そして11月のIFRS財団評議員会議長 Michel Prada の来日について説明します。

## リース会計アウトリーチ

8月26日の週は、ロンドンからIASBのDarrell ScottとスタッフのPatrina Buchananが来日し、鶯地理事と一緒にリース会計のアウトリーチを実施しました。

まず、26日に香港に到着し、27日まで香港でアウトリーチを実施しました。香港公認会計士協会のアレンジで、午前中は香港公認会計士協会リース・ワーキンググループのメンバー（主に大手監査法人のパートナー）と意見交換し、午後は、船会社、小売業、航空会社などの企業の方と意見交換しました。また、これらのミーティングを挟んで、ランチタイムには、大手投資銀行のアナリストの方とお会いし、アナリストが財務分析上、リースをどのように取り扱っているかに関する理解を深めました。IASBのDarrell Scottは、南アフリカの大手銀行でCFOを務めていた経験があり、IASBでは保険会計のBoard Advisorも兼務していますので、今回、香港に来る機会を利用して、現地の大手保険会社の方とディナーを共にし、保険会計に関する意見交換も行いました。

翌日は、香港公認会計士協会主催のセミナーが開催され、Darrell ScottとIASBスタッフのJoanna Yeohが保険会計のプレゼンテーショ

ンを、そして、Patrina Buchanan がリース会計のプレゼンテーションを行いました。質疑応答では参加者からの様々な質問をいただきました。

その後、27日の夜に日本に移動し、28日の朝から30日の夜まで、日本でリース会計のアウトリーチをしました。28日は、韓国や台湾の関係者とテレビ会議を通じて意見交換しました。特に台湾は、経済規模も比較的大きく、2013年から全ての上場企業に対して国際財務報告基準(IFRS)での報告が義務付けられた新しいIFRS適用地域です。台湾は、地政学的な理由から、IASBに対して意見を述べる機会が限定されていますので、アジア・オセアニアオフィスとしても、積極的に台湾の関係者からの意見を聞いていきたいと考えています。28日は、夕刻から日本の大手メーカーを訪問し、提案中のリース会計を導入した場合のコスト負担に関する理解を深めました。

29日と30日は、日本の製造業社、リース事業者、不動産業者、小売業者、船会社など個別のミーティングをもち、それぞれの業種におけるリース会計に関する意見や懸念をヒアリングしました。どのミーティングも事前準備がしっかりされており、たいへん有意義なものでした。特に、リース事業者からは、日本企業の財務諸表分析に基づく意見や助言をいただき、IASBにとっても有用なデータが得られたと考えています。これらの団体のほか、日本証券アナリスト協会、日本公認会計士協会、企業会計基準委員会(ASBJ)などとも意見交換しました。日本でのアウトリーチは、いつも事前準備がしっかりされており、IASBのスタッフも、その質の高さに感嘆しています。

## 概念フレームワーク及び保険会計のアウトリーチ

11月4日の週は、概念フレームワークのアウトリーチと保険会計のアウトリーチが行われました。この週は、これらのアウトリーチ・イベントの他に、ASBJにおいて日中韓三カ国会議が行われましたので、たいへん忙しい週でした。

11月4日月曜日は日本では国民の祝日でした。IASBの保険プロジェクトを担当しているAndrea PrydeとIASB理事のDarrell Scottは、日本に到着する前に韓国に立ち寄り、4日と5日に韓国の金融監督庁や保険会社と面談し、保険会計の再公開草案に関する意見のヒアリングを行いました。また、韓国の会計関係者向けのセミナーを開催し、保険会計のプレゼンテーションと質疑応答を行いました。同じ11月4日には、IASBで概念フレームワークを担当しているIASBスタッフのKristy Robinson、川西安喜、そしてIASB理事の鶯地隆継が韓国で概念フレームワークのアウトリーチを実施しました。概念フレームワークチームは、翌日5日に日本で行われる概念フレームワークの円卓会議のため、その日の夕方に東京に移動しました。

5日は、東京のアジア・オセアニアオフィスで、IASBが公表した概念フレームワークのディスカッションペーパーに関する円卓会議(ラウンドテーブル)を開催しました。円卓会議は午前の部と午後の部の2回行われ、午前の部には4カ国から13名の方が参加し、午後の部には3カ国から10名の方が参加しました。基準設定主体や監督官庁、公認会計士や大学関係者、さらには製造業や資産運用会社など、多くの業種からご参加いただきました。傍聴者も、のべ40名を超えました。

この円卓会議では、アジア・オセアニアオ

フィスの様々な IT 設備を利用しました。オーストラリアから電話会議で会議に参加してもらい、その会議の様子はインターネットを使ってリアルタイムに世界にウェブ配信されました。その時の動画は、IFRS 財団のウェブページにアップロードされ、しばらくの間、一般の閲覧のために公開されていました。

会議では、ASBJ の支援により、日本の傍聴者のために同時通訳が付けられましたが、議論は原則として英語で行われました。日本をはじめとするアジアの多くの国では、英語は母国語ではありませんが、参加者の皆様は、そのぶんだけ、ゆっくりと、ただしははっきりと論理的に自分の主張を展開されていました。日本の関係者からも、機知に富んだ発言、コメントが多く出てきて、たいへん議論が盛り上がりました。IASB としても、欧州や米国とは違った雰囲気、違った視点からの意見が聞けて有意義だったと思います。

6日から8日にかけては、概念フレームワークチームと保険チームの二手に分かれて、それぞれのプロジェクトのアウトリーチを実施しました。まず、保険チームですが、日本証券アナリスト協会や金融庁、生保協会、損保協会、そして公認会計士協会の方々と面談し、再公開草案で質問している5つのポイント及びその他のポイントについて各団体の意見を聞きました。日本の関係者、特に生保協会と損保協会の方は、再公開草案において提案されている内容をたいへん深く研究されており、数値を使った事例を用いて、矛盾が生じる点や、それを解決するための代替案などをロジカルに説明されました。IASB としても、たいへん興味深い提案がいくつかあったので、ロンドンに持ち帰って検討することになりました。保険チームは、6日の夕刻に日中韓三カ国会議に参加し、そこで、日本、中国、韓国、香港、マカオ、それぞれの基準設定主体に対して、保険会計に関してこれ

までに受け取ったコメントを紹介し、それに基づいて意見交換を行いました。この会議では、TV 会議システムを通じて IASB ロンドンからも複数名の理事が参加しました。

保険チームは、その後、生命保険会社の経理担当者や、再保険会社の CFO などと、日程の許す限り多くの方とお会いし、残りの時間を、これまで上がってこなかった問題の拾い漏れがないか確かめることに費やしました。

概念フレームワークチームは、6日と7日に、大学関係者、日本公認会計士協会、経団連、日本証券アナリスト協会、ASBJ などとミーティングをもち、概念フレームワークの各ポイントについて意見交換を行いました。

## IFRS 財団評議員会議長来日

翌週、11日と12日に、IFRS 財団評議員会議長の Michel Prada が来日しました。今回の来日は、アジア・オセアニアオフィス設立1周年に当たること、及び、今年6月に企業会計審議会が公表した IFRS に関する当面の方針に関して、日本の関係者の方々と意見交換することが目的です。

11日の朝に、まずは、日本公認会計士協会を訪れ、森公高会長、関根愛子副会長他日本公認会計士協会の方々、そして大手監査法人の代表者の方々と意見交換をしました。ミーティングでは、日本企業の IFRS に関する現状や見通しに関して、まずは森会長や大手監査法人の方からご説明を受け、その後、Michel Prada から最近の IFRS 財団の状況や日本の任意適用拡大の方針に関する所見を述べさせていただきました。IFRS 適用の現場を見ている監査法人の方々の意見はたいへん示唆に富むものであり、正直、時間が足りないと感じました。次回はもっと時間を取りたいと思いました。

6日の午後には金融庁を訪問し、大臣及び長官と面談しました。長官からは、今年6月に企業会計審議会が公表したIFRSに関する当面の方針に関して、その背景を含めたご説明をいただきました。Michel Pradaからは、このような日本の動きを、IFRS財団としては前向きに捉えていることを述べさせていただきました。その後は、財務会計基準機構（FASB）を訪問し、理事長及び事務局長から、最近のFASBの活動状況などについて説明を受けました。

7日は、朝早くからFASBのステークホルダーミーティングに参加し、そこで「アラカルト会計は世界的に一貫した基準をもたらさない」と題したスピーチを行いました。Michel Pradaが来日する数週間前に、米国財務会計基準審議会（FASB）のRuss Golden議長が来日し、経団連でスピーチを行っています。Michel Pradaからは、「単一セットの国際会計基準の重要性」が繰り返し説明されました。

Michel Pradaは、その後、いくつかのミーティングの後、経団連企業会計委員会企画部会の皆様との懇談会に参加しました。経団連の部会の皆様からは、のれんの償却やその他包括利益のリサイクリング、さらに現在開発中の新リース会計など、テクニカルに関する忌憚ないご意見をいただきました。Michel Pradaは、

評議員の立場から、テクニカルな問題にはコメントできませんでしたが、日本の関係者がIASBに対して抱えている懸念や要望を評議員会の議長に理解してもらおうという意味では、たいへん有意義なミーティングでした。

Michel Pradaは、その後、夕方の便で中国北京に旅立ちました。Michel Prada来日時には、多くの日本の関係者の方から貴重なお時間とご助言をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

## おわりに

2013年の半ばにIASBが重要なプロジェクトの公開草案やディスカッションペーパーを公表したため、2013年の後半は、海外から日本へ多くの理事やスタッフを招聘しました。アジア・オセアニアオフィスでは、日本の関係者の皆様のご意見をロンドンのIASB本部に伝えられるよう、また、日本だけではなくアジア・オセアニア地域の関係者の声をロンドンに伝えられるよう、2014年も、このような機会を数多く設けていきたいと考えています。引き続き、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。